

にっせい農事にゅーす

(第 4 7 5 回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

今年の梅雨入りは平年並で、静岡県を含む東海地方は 6 月 7 日頃（平年より 1 日遅い）に梅雨入りしました。梅雨入りした頃は、雨があまり降りませんでしたが、6 月後半からは降雨の機会も多く、また日差しも弱くて梅雨らしい天気の日が続きました。静岡県の平年の梅雨明けは 7 月 19 日頃なので、あと半月位は、梅雨空が続きそうです。例年、梅雨の後半となる 7 月は雨が多くなるため、病害の感染、発生が多くなります。また梅雨明け後は害虫の発生増加も心配されます。今月号では、主要作物の水稻、みかん、茶の病虫害防除について 7 月の防除作業を紹介します。

また、今年も梅雨明け後に、気温の高い天候が続くことが予想されているため、高温による農作物の生育障害が心配されます。天気予報を参考に適切な栽培管理を心掛けてください。

病虫害防除所の 7 月予報によると、稲でごま葉枯病がやや多、かんしょで、シロイチモジヨトウ、エビガラスズメが多、ナカジロシタバがやや多、温州みかん、中晩柑類でかいよう病が多、温州みかんで黒点病がやや多、茶でチャノコカクモンハマキ、チャノミドリヒメヨコバイ、クワシロカイガラムシが多、輪斑病がやや多、キク（施設）でアブラムシ類、オオタバコガが多の予報が出ています。また、茶のクワシロカイガラムシに対する発生予察注意報が 6 月 26 日に、温州みかん、中晩柑類のかいよう病に対する技術情報が 6 月 30 日に発表されました。

令和 8 年 6 月 23 日

気象予報 ‘26－7 東海地方 3 か月気象予報 名古屋地方気象台

この期間の平均気温は、高い確率 5 0 % です。降水量は、平年より多い確率 4 0 % です。

● 月別の予報

7 月：期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率 6 0 % です。

8 月：平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年より高い確率 6 0 % です。

9 月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並の確 4 0 % です。

● 向こう 3 か月の気温、降水量の各段階の確率（%）

予報の 区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3 か月	10%	40%	50%	30%	30%	40%
7 月	10%	30%	60%	30%	30%	40%
8 月	10%	30%	60%	30%	30%	40%
9 月	30%	30%	40%	30%	30%	40%

病虫害発生予察情報(7月予報)

令和8年6月30日
静岡県病虫害防除所長

1 予報概況

作物名	病虫害名	予報 (7月の県平均平年値)	予報の根拠
稲	葉いもち・穂いもち	発生量:少 (発病株率 1.9%)	6月中下旬の葉いもち発生量:なし (－) 6月中下旬の置き苗いもち発生:なし (－) 気象予報 :気温 :高い (－) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	ごま葉枯病	発生量:やや多 (発病株率3.7%)	6月中下旬発生量:並 (±) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	縞葉枯病 (ヒメビウンカ)	発生量:やや少 (発病株率 0.2%)	6月中下旬の縞葉枯病発生量: 並(発生なし) (±) 6月中下旬のヒメビウンカ発生量: 少 (－) 6月の予察灯誘殺数:少(誘殺なし)(－) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	セジロウンカ	発生量:並 (寄生虫数:0.5頭／株)	6月中下旬発生量:少(発生なし) (－) 6月の予察灯誘殺数:並(誘殺なし)(±) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	トビイロウンカ	発生量:並 (寄生虫数:0.002頭／株)	6月中下旬発生量:並(発生なし) (±) 6月の予察灯誘殺数:並(誘殺なし)(±) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	斑点米カメムシ類	発生量:並 (平年捕獲数20.3頭／30回 すくいとり)	6月中下旬発生量 :少 (－) 6月の予察灯誘殺数:少 (－) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
かんしょ	シロイチモジヨトウ	発生量:多 (寄生虫数0.1頭／㎡)	6月上旬発生量 :多 (＋) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	ナカジロシタバ	発生量:やや多 (寄生虫数0.3頭／㎡)	6月上旬発生量 :並 (±) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	イモキバガ	発生量:やや少 (巻葉数1.4葉／㎡)	6月上旬発生量 :少 (－) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	エビガラスズメ	発生量:多 (寄生虫数0.02頭／㎡)	6月上旬発生量 :多 (＋) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
温州 みかん	かいよう病	発生量:多 (発病度(果) 0.1)	6月上中旬発生量:多 (＋) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	黒点病	発生量:やや多 (発病度 0.6)	6月上中旬発生量:並(発生なし) (±) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量:並 (寄生果率0.5%)	6月上中旬発生量:少(発生なし) (－) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)
	ミカンハダニ	発生量:やや少 (寄生葉率 7.0%)	6月上中旬発生量:やや少 (－) 気象予報 :気温 :高い (±) 降水量:ほぼ平年並 (±)
中晩柑類	かいよう病	発生量:多 (発病度(果) 0.4)	6月上中旬発生量:多 (＋) 気象予報 :気温 :高い (＋) 降水量:ほぼ平年並 (±)

作物名	病害虫名	予報 (7月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
キウイ フルーツ	かいよう病	発生量: やや少	6月中旬発生量: 並 (±) 気象予報: 気温: 高い (ー) 降水量: ほぼ平年並 (±)
果樹全般	果樹カメムシ類	発生量: やや少	越冬量: 少 (ー) かんきつ寄生数: 少 (ー) 病害虫防除員調査: 多 (＋) 予察灯誘殺数: 少 (ー) フェロモントラップ誘殺数: 少 (ー) ヒノキ着果量: 多 (＋) ヒノキ寄生数: 少 (ー) ヒノキ球果吸汁痕数: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
茶	炭疽病	発生量: やや少 (病葉数 16.1葉/1.25㎡)	6月上中旬発生量: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (±) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	もち病	発生量: やや少 (病葉数 6.5葉/1.25㎡)	6月上中旬発生量: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (ー) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	輪斑病	発生量: やや多 (病葉数 20.2葉/1.25㎡)	6月上中旬発生量: 並 (±) 気象予報: 気温: 高い (＋)
	チャハマキ	発生量: 並 (寄生虫数0.5頭/1.25㎡) 発生時期: 並	6月上中旬発生量: やや少 (ー) フェロモントラップ誘殺数: 並～多 (±～＋) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	チャノカクモン ハマキ	発生量: 多 (寄生虫数0.3頭/1.25㎡) 発生時期: 並	6月上中旬発生量: 多 (＋) フェロモントラップ誘殺数: 並～多 (±～＋) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	チャノホソガ	発生量: やや少 (巻葉数1.0葉/1.25㎡) 発生時期: 並	6月上中旬発生量: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量: やや少 (叩き落とし虫数11.6頭/4か所)	6月上中旬発生量: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量: 多 (叩き落とし虫数2.9頭/4か所)	6月上中旬発生量: やや多 (＋) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	クワシロ カイガラムシ	発生量: 多 (寄生株率0.6%) 発生時期: やや早い	6月上中旬発生量: 多 (＋) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	ヨモギエダシャク	発生量: 並 (叩き落とし虫数0.1頭/4か所)	6月上中旬発生量: やや少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
きく (施設)	黒斑病・褐斑病	発生量: 並 (発病株率: 0.3%)	6月中旬発生量: 少(発生なし) (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋) 降水量: ほぼ平年並 (±)
	アザミウマ類	発生量: 並 (被害株率: 15.2%)	6月中旬発生量: やや少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋)
	アブラムシ類	発生量: 多 (寄生株率: 0.1%)	6月中旬発生量: 多 (＋) 気象予報: 気温: 高い (＋)
	オオタバコガ	発生量: 多 (被害株率: 1.4%)	6月中旬発生量: 多 (＋) フェロモントラップ誘殺数: 多 (＋) 気象予報: 気温: 高い (＋)
	ハダニ類	発生量: やや少 (寄生株率4.9%)	6月中旬発生量: 少 (ー) 気象予報: 気温: 高い (＋)

令和8年6月26日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：クワシロカイガラムシ
対象作物：茶

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域 : 県内全域
- (2) 第2世代幼虫の発生が予想される時期 : 7月上中旬
- (3) 発生程度 : 多
- (4) 防除時期 : 7月上中旬

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和8年6月上中旬の茶巡回調査では、平均雄繭寄生株率は県全体で19.8%（平成8.2%）と平成より2倍以上多かった。地域別では、富士山麓で13.3%（平成6.0%）、静岡市北部で13.0%（平成4.6%）、牧之原で32.5%（平成15.3%）、小笠・磐田原で23.8%（平成10.4%）、川根で18.9%（平成4.5%）と各地域で発生が平成より多かった。（表1）
このため、次世代でも発生が多くなることが懸念される。
- (2) 雄繭発生面積率は、県全体で56.8%（平成33.0%）と平成より多かった。地域別では、富士山麓で55.6%（平成24.0%）、静岡市北部で30.0%（平成25.0%）、牧之原で62.5%（平成50.0%）、小笠・磐田原で62.5%（平成41.0%）、川根で77.8%（平成25.0%）であった。（表1）

3 防除方法

- (1) 発生が認められる茶園（図1～3）では、適期に防除を行う。
- (2) 防除適期は、卵の半数以上がふ化に達した卵塊の比率が、全体の60～90%になる時期である。アメダス気象データを用いた予測（6月19日現在）によると、今後の気温が平成並で推移した場合、県内における第2世代幼虫の防除適期は7月3日～18日と予想される。なお、今後の気温が平成より高く推移した場合、防除適期は早まるため注意する。
- (3) 産地ごとの詳細な防除適期は、病害虫防除所ホームページ「[防除時期等予測](#)」を参照する。
- (4) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による「[静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数や総使用回数に注意する。
- (5) 薬液は樹冠内の枝幹に十分かかるよう、十分量（成木園で1,000L/10a）を散布する。ノズルは、専用のノズルを使うと効果が高い。具体的には、動力噴霧器による手散布ではアーチ型ノズル等、乗用型防除機による散布では上方ブームノズルとカイガラノズルを併用する。
- (6) 防除にあたっては、周辺ほ場へのドリフトに十分留意する。
- (7) 不明な点については、病害虫防除所、農林技術研究所茶業研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表 1 6月の各地域の茶園におけるクワシロカイガラムシ雄繭発生状況

		地域 ^{a)}					
		富士 山麓	静岡市 北部	牧之原	小笠・ 磐田原	川根	県全体
平均雄繭寄生株率（％）	本年	13.3	13.0	32.5	23.8	18.9	19.8
	平年 ^{b)}	6.0	4.6	15.3	10.4	4.5	8.2
雄繭発生面積率（％）	本年	55.6	30.0	62.5	62.5	77.8	56.8
	平年 ^{b)}	24.0	25.0	50.0	41.0	25.0	33.0

a) 各地域の数値は、10園地の平均値。県全域は全50園地の平均値。

b) 過去10年間（2016年～2025年）の平均値。



図 1 茶枝に寄生した雄繭



図 2 雌成虫と卵塊



図 3 茶枝に寄生した雌成虫

【問合せ先】 静岡県病虫害防除所
〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780
ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



令和 8 年度 技術情報第 2 号
温州みかん、中晩柑類 かいよう病

令和 8 年 6 月 30 日
静岡県病虫害防除所長

県全域でかいよう病が多発しているため、防除に努めてください。

1 発生状況

- (1) 令和 8 年 6 月上中旬の温州みかんの巡回調査では、葉の平均発病度は 3.2 (平年 0.3) と平年より多かった (表 1)。一部園地では果実においても僅かに発生が見られた (平年発病度 0.01)。
- (2) 温州みかんは本病に対して抵抗性を持つとされているが、昨年は西部地域で、本年は中部及び西部地域で、葉において微小な病斑 (図 2、図 3、図 4) が多く確認されている ([「令和 7 年度技術情報第 1 号」](#))。
- (3) 令和 8 年 6 月上中旬の中晩柑類の巡回調査では、果実での発生は認められなかった (平年発病度 0.05) が、葉の平均発病度は 1.6 (平年 0.7) と平年より多かった (表 1)。
- (4) 本病の病原細菌は、風雨によって飛散・感染する。今後、強風や強い雨による感染の拡大が予想されるため、現時点で発生がみられないほ場でも防除に努める。

2 防除方法

- (1) 発病枝は伝染源になるため除去する。
- (2) 本病の防除は感染前の予防が重要である。感染後の防除では効果がないため、薬剤の予防散布に努める。
- (3) 予防散布は降雨前に行う。銅水和剤を散布する際は薬害軽減のため炭酸カルシウム剤を加用する。
- (4) 農薬による防除については[「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」](#)を参照する。
- (5) 強風は風ずれ等の傷や病原細菌の飛散につながるため、防風垣、防風網の整備など防風対策をする。
- (6) ミカンハモグリガの被害部は本病の発生を助長するため、ミカンハモグリガの防除に努め、被害枝は除去する。
- (7) 不明な点については病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、最寄りの農林事務所、農協等に問い合わせる。

表1 6月上中旬におけるかいよう病の発病度

		温州みかん				中晩柑類
		東部	中部	西部	県平均	県平均
発病度(果)	本年	0	0.1	0	0.03	0
	平年	0	0.002	0.01	0.01	0.05
発病度(葉)	本年	0.7	6.4	2.5	3.2	1.6
	平年	0.3	0.1	0.7	0.3	0.7
発生面積率(%)	本年	30.0	70.0	60.0	53.3	20.0
	平年	20.0	7.0	13.0	13.3	43.0

発病度 = $((5A+B)/(5 \times \text{調査果(葉)})) \times 100$

A: 病斑数が1果(葉)あたり4個以上のもの、B: 1～3個



図1 葉の発病(中晩柑類)

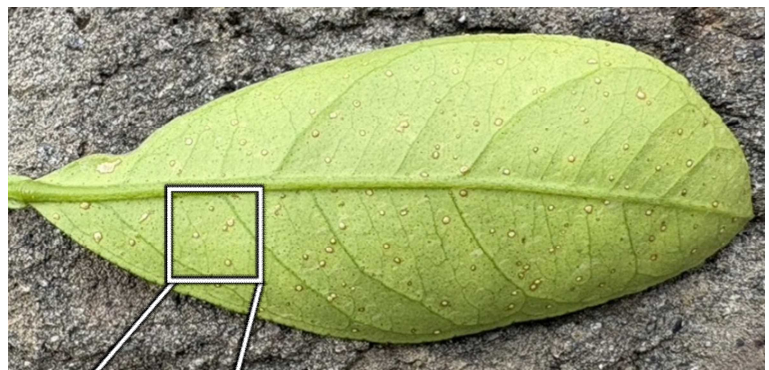


図2 葉における微小な病斑(温州みかん)

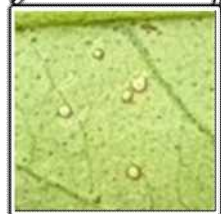
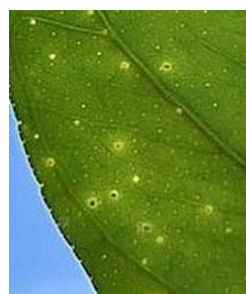


図3 病斑の拡大図

図4 ハローを伴う病斑
(温州みかん)図5 果実の病斑
(中晩柑類)

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



7月の防除作業 水稻、みかん、茶

<水 稲>

例年、7月は梅雨の後半で、雨の降る日や曇りの日が多い。ちょうどいもち病が発生しやすい気象条件である（いもち病の感染は平均気温が15～25℃で、葉面の湿潤時間が10時間以上の時に起こりやすい）。平年の梅雨明けは7月19日前後のため、まだいもち病に感染しやすい天候が続くと思われる。雨が続くようなときは、水田を見回り、早めに薬剤散布（ブラシフロアブル等）を行う。また梅雨が明けると、気温や湿度が上昇する。7月下旬から8月は幼穂形成期で、いもち病に替わって紋枯病が発生する。前年に紋枯病の発生が見られた水田では、伝染源となる菌核が残っているので、早めに薬剤散布（モンカットフロアブルやバリダシン液剤5等）を行う。ブラシンやモンカットは、ドローンを用いた薬剤散布が可能である。



紋枯病

例年、7月末から8月にかけてセジロウンカが多発する。また近年はイネカメムシが7月に収穫した早生水田に飛来して穂を吸汁加害する。今年は今のところセジロウンカの飛来が確認されていないが、イネでの発生に十分注意する。田植え時に処理した箱粒剤の残効は2ヶ月ほどあるが、ウンカの発生が目立つようであれば、早めに防除する。また昨年イネカメムシの被害が見られた水田でも予防的な薬剤散布（エクシードフロアブル、アルバリン粒剤等）を行う。エクシードは、ドローンを使った薬剤散布が可能である。



セジロウンカ

<みかん>

7月は、例年、降水量が多く、黒点病の発生に注意が必要である。黒点病は、樹幹内部の枯枝や園の内外に放置された剪定枝が伝染源となるので、枯枝は適宜除去し、園外へ持ち出して処分する。薬剤散布は25～30日間隔、または降雨量250～300mmを目安として行う（ペンコゼブ水和剤、ジマンダイセン水和剤など）。昨年から、かいよう病の発生が増加している。感染後の防除では効果がないので、予防的な薬剤散布が重要（コサイド3000、クプロシールド、バリダシン液剤5など）。



黒点病

害虫では、チャノキイロアザミウマが7月前半は果実の額の内側を、後半に果頂部を加害するようになる。病虫害防除所の発表する成虫発生時期の予想情報を参考に薬剤散布を行う（アルバリン顆粒水溶剤、キラップフロアブル、アグリメックなど）。また新梢で増殖したミカンサビダニが果実へ移動し吸汁加害する。果実被害が見られるのは秋期以降だが、加害されるのはこの時期のため、前年に被害の見られた園では必ず防除を行う（ダニゲッターフロアブル、アグリメック、カネマイトフロアブルなど）。



サビダニ被害果

< 茶 >

7月は来年の一番茶の土台となる三番茶芽の生育時期となることから、病虫害の被害を抑えて健全な新梢を生育させたい。この時期に防除が必要な病虫害は、チャハマキ・チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、炭疽病、もち病、新梢枯死症等である。防除は、地域の予察灯やフェロモントラップの誘殺数をもとに、発生盛期の7～10日後（若令幼虫期）を目安に防除する（サムコルフロアブルやマッチ乳剤など）。ウンカ、スリップス、ホソガには、新芽の開葉初期と10～14日後の2回散布する（グレーシア乳剤、カスケード乳剤、又はオルトラン水和剤、ウララDF等のウンカ・スリップス剤にディアナSCを加用など）。また7月下旬はクワシロカイガラムシの幼虫のふ化時期に当たる。越冬期にプルートMCを散布していない茶園ではアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤で防除する。病虫害防除所のホームページに掲載される防除時期予測を参考に、茶園での虫の発育状況をよく観察し、適期防除に努める。7～8月にかけては、ヨモギエダシヤクが突発的に発生する。サムコル、マッチ、カスケード、グレーシアなどはシャクトリとの同時防除が可能である。

炭疽病やもち病は、新芽萌芽～開葉期に感染する。炭疽病の感染には、10時間程度の連続した降雨が必要である。もち病には、100%近い高湿度条件が必要である。7月は中旬まで梅雨が続く、降雨の機会が多いので、これらの病害の発生に注意する。台風等の襲来で降雨が続くことが予想される場合は、ダコニール1000やフロンサイドSC等の予防効果の高い薬剤とスコア顆粒水和剤やオンリーワンフロアブル等の治療効果の高い薬剤を使い分けて防除を行う。新梢枯死症は三番茶新芽の包葉や不完全葉の離脱した傷口から輪斑病菌が侵入して感染する。ダコニール1000、フロンサイドSCで同時防除が可能。



チャノコカク
モンハマキ



チャノミドリ
ヒメヨコバイ



炭疽病 もち病

今月の防除(令和8年7月)

作物	時期	病害虫	使用薬剤	使用法	使用基準	備 考
イネ 普通期	下	紋枯病 葉いもち ウンカ類	バリダシン液剤5又は モンカットフロアブル 上記のいずれかに ブラシフロアブルと アルバリン顆粒 水溶剤を混用する	1,000倍 1,000倍 1,000倍 3,000倍	14日-5 14日-4 7日-2 7日-3	バリダシン剤やブラシン剤は もみ枯細菌病にも有効。 モンカットはドローン散布が可能
イチゴ 仮植期	上～下	炭疽病 コガネムシ類幼虫	アントラコール 顆粒水和剤 フォース粒剤 又は ダイアジノンSLゾル	500倍 6kg/10a 50倍	仮植期-6 植付時-1 植付時-1	炭そ病は雨よけ栽培と薬剤散布を併用 する。 全面土壌混和 全面土壌混和
チャ 三番茶	萌芽期	ウンカ・スリップス チャノホソガ及び ヨモギエダシャク 新梢枯死症 炭疽病・もち病	ウララDF と ディアナSCを混用 フロンサイドSC 又は ダコニール1000	1,000倍 5,000倍 2,000倍 700倍	7日-1 前日-1 14日-1 10日-1	ウララはツマグロカスミカメに、ディアナ はハマキムシ類にも有効である。
	生育期	ウンカ・スリップス チャノホソガ及び ヨモギエダシャク 炭疽病・もち病・ 褐色円星病	グレーシア乳剤 又は カスケード乳剤 スコア顆粒水和剤	2,000倍 4,000倍 2,000倍	14日-1 7日-2 7日-2	カスケード、グレーシアはチャノホコリダニ、 チャノナガサビダニにも有効である・ 褐色円星病の防除適期は硬化初期で ある。
	7月中～ 下	クワシカイガラムシ	アブロードエース フロアブル	1,000倍	14日-2	展着剤のスカッシュ又はミックスパワー 又はササラを加用すると付着性高まる
温州 みかん	上～中	黒点病 チャノキイロアザミウマ 及びミカンサビダニ ミカンハモグリガ・ 及びヨモギエダシャク	ペンコゼブ水和剤 アグリメック エクシレルSE 又は ミネトエクストラSC	800倍 2,000倍 5,000倍 10,000倍	30日-4 7日-3 前日-3 21日-1	炭酸カルシウム微粉末剤を6,7月に散布 するとチャノキイロアザミウマに有効。 エクシレルSEはチャノキイロアザミウマ やゴマダラカミキリ成虫にも有効。
	下	黒点病 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 ロウムシ類	ジマンダイセン水和剤 キラップフロアブル アクタラ顆粒水溶剤 〃	800倍 2,000倍 2,000倍	30日-4 21日-2 14日-3	7月にミカンハダニが発生したらカネマイ トフロアブル1000倍(7日-1)を追加 散布する。
中晩柑	上～下	かいよう病 黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンハモグリガ	コサイド3000 ジマンダイセン水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 ダントツ水溶剤	2,000倍 800倍 10,000倍 4,000倍	生育期 90日-4 14日-3 前日-3	薬害のおそれがあるので、炭酸カル シウム剤を加用する。ジマンダイセン 水和剤は中晩柑類とみかんでは、使用 基準が異なるので注意する。